

＝プレスリリース＝

平成25年5月28日

いわて景気ウォッチャー調査結果

— 平成25年4月調査 —

標記について、概要を取りまとめましたので公表いたします。

なお、詳細は機関誌「岩手経済研究」25年6月号に掲載予定です。

盛岡市中ノ橋通一丁目2番16号
岩手銀行中ノ橋支店3階
一般財団法人岩手経済研究所
理事長 高橋 真裕
地域経済調査部（担当 畠山）

TEL 019-622-1212

＜ 調査結果の概要＞

1. 県全体の状況

現状判断は改善に向けた動きから50を超え、先行き判断も2期連続で50を上回る。

(1) 現状判断 ～3期(9カ月)ぶりに50を上回る～

3カ月前と比較した県内の景気の現状判断指数は51.7と前回(46.4)に比べ5.3ポイント上昇し、景況感の分かれ目とされる50を3期(9カ月)ぶりに上回った。判断指数は改善を続けており、**県内の景気ウォッチャーは景気の現状について改善に向けた動きが続いているとみている。**

回答の構成比では、「良くなっている」「やや良くなっている」が32.6%(前回20.0%)と増加したのに対し、「変わらない」は48.3%(同47.8%)と横ばい、「やや悪くなっている」「悪くなっている」は19.1%(同32.2%)と減少した(図表1、2)。

分野別では家計関連指数は50.4(同46.7)、企業関連指数は52.4(同36.3)、雇用関連指数58.3(同66.7)と雇用関連を除き上昇した。

家計関連では消費に明るさが戻りつつある一方、宅地・住宅需要が高まるなか、人員の不足などから供給が追いついていない状況が続いている。企業関連では生産は昨年12月に底を打ち回復傾向にあるとの回答もみられた。

(2) 先行き見通し ～2期(6カ月)連続で50を上回る～

2～3カ月先の県内の景気の先行きに対する判断指数は56.2と前回(56.1)に比べ0.1ポイント上昇し、**2期(6カ月)連続で50を上回った。先行きの改善には、一連の経済対策への期待の大きさも含まれている。**

回答の構成比では、「良くなる」「やや良くなる」を選択したウォッチャーは41.6%(前回35.6%)と増加、「変わらない」は39.3%(同53.3%)と減少した。一方で「やや悪くなる」「悪くなる」も19.1%(同11.1%)と増加した(図表3、4)。

分野別では家計関連指数が55.5(同54.5)、企業関連指数が56.0(同57.5)、雇用関連指数は61.1(同63.9)といずれも50を上回った。

一連の経済政策に対する期待もあり先行きは2期連続で50を上回った。また、最近の円安は、一部の輸出関連の製造業や、外国人観光客の増加が期待される観光業などからは業況回復の兆しと捉えられている一方、燃料や食料品などが値上りし消費マインドを低下させると懸念する回答も寄せられた。

2. 地域別の状況

地域別では、現状で県内4地域のなかで県央、県南地域に改善がみられ、先行きでは県内の全地域が50を超えた(図表5)。

現状判断は、県南地域が57.6(前回45.0)と4地域のなかで最も高く、県央地域は49.1(同46.9)、沿岸地域は45.3(同45.3)、県北地域は46.9(同53.6)であった。

先行き判断は、県北地域が59.4(同60.7)と最も高く、県央地域は56.9(同54.7)、県南地域は56.3(同58.6)、沿岸地域は53.1(同51.6)であった。**県北地域ではNHKの朝ドラ「あまちゃん」に地域経済の活性化を期待する声が寄せられた。**

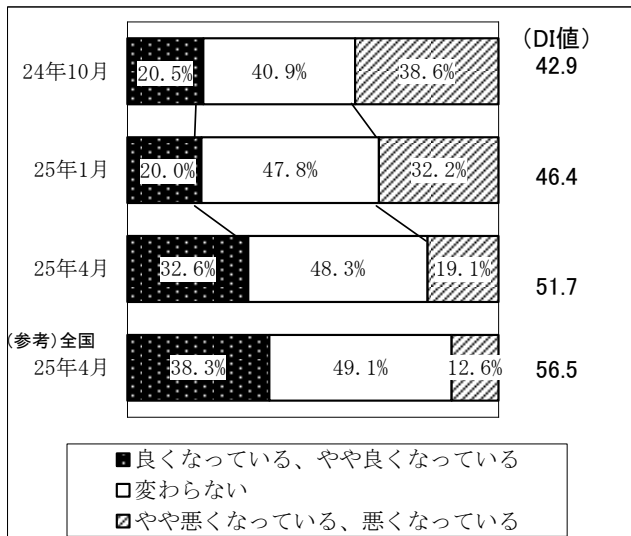
(ウォッチャーのコメントは参考1、数値については参考2、調査要領については参考3をそれぞれご参照ください。)

【参考 1 : 景気ウォッチャーの主なコメント】

	分野	判断	判断の理由
現 状	家計 関連	良	桜ツアーの入込みが順調。昨年開催された「いわてデスティネーションキャンペーン」の効果か、首都圏や北海道からの学生団体旅行が増加している。(県南：飲食業)
		やや良	婦人服など一部動き出している。政府の景気対策により灯油、ガソリン、電気料金の値上げとマイナス要素が先行しているが、期待感から消費に明るさが戻りつつある。(県央：商店街組合)
		やや良	資材などの流れは良くなってきたが、人手不足が深刻化している。(県南：住宅建築業)
		不変	燃料価格の値上りにより請求額が増え、お客様からお叱りをいただいた。口座引落で残高不足のお客様も多く、家計を圧迫していることを強く感じている。(県央：燃料小売業)
		やや悪	農家の買い控えが続いている。TPPや放射能除染問題などで先行きに不安を抱えているようだ。(県南：小売業)
		悪	売上、客数とも前年を下回っている。当面流れは変わりそうにない。(沿岸：ショッピングセンター)
	企業 関連	不変	生産は昨年12月に底を打ち回復傾向にある。現時点で夏までの仕事は確保している。(県南：製造業)
		不変	とにかく人手が不足している。下請の職人不足と資材の高騰で利益が出ない。政府が全国で公共工事を増やすと、ますます人出不足が深刻になるのではないか。(県央：建設業)
	雇用 関連	やや良	地元企業が再開してきており、復興関連でも求人が増えている。(沿岸：学校就職担当)
		やや悪	業務受注が減少するため求人も減る見込み。製造業が不振で関連企業への影響が心配される。夏以降は徐々に回復を期待している。(県南：人材派遣業)
先 行 き	家計 関連	良	震災以降、復興関連の業者で宿泊施設の稼働率が高い。今後はさらに観光客などの増加も期待される。(沿岸：クリーニング業)
		やや良	政府、日銀の景気対策の効果が、地方にも徐々に及んでくるのではないかと期待している。(県央：ホテル業)
		やや良	地元だけの売上だと微減。震災復興に関して支払われている賃金が、地元商店街では使われていない。NHKのあまちゃん効果に期待したい。(県北：小売業)
		不変	景気対策の効果から明るい話題も増えたが、ガス、ガソリンが依然として高く、食用油や小麦粉も値上がりとなるなど家計は圧迫されている。外食は簡単には増えないと思う。(県南：飲食業)
		やや悪	盛岡市内でも地区によって、盛衰がはっきりと現れている。当地区では有名チェーン店などの閉店が続く、地域商業の魅力が失われてきている。(県央：サービス業)
		やや悪	夏季限定商品で巻き返しを図りたいが、これまでの6カ月間も主力商品の不振が続いており、あまり期待できない。(沿岸：小売業)
	企業 関連	不変	飲食業界の景気が良くないようだ。もうしばらくはこの状況が続くと考えられる。(県北：酒造業)
		やや悪	食料品や電気料金などの値上げが続く、実勢はやや悪くなるのではないか。(県南：運送業)
	雇用 関連	やや良	実際の給与、賃金が上昇すれば、消費が拡大し景気が良くなっていくと思う。(県央：学校就職担当)
		やや良	自動車関連や建設関連など、一部には景気の回復を予感させるが、全体的には明確なものがまだ見えていない。政府と産業界にはさらなる取り組みを期待したい。(県央：学校就職担当)

【参考2】

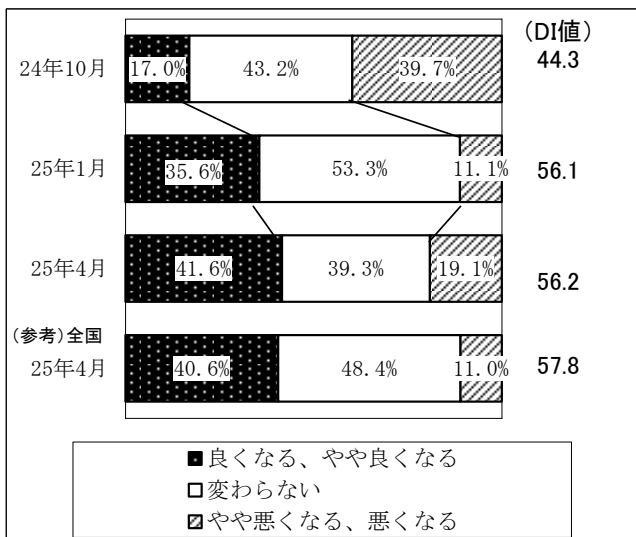
図表1 回答構成比（現状判断）



図表2 景気現状判断指数（DI）の内訳

分野	24年10月	25年1月	25年4月	増減
合計	42.9	46.4	51.7	5.3
家計関連	41.9	46.7	50.4	3.7
小売関連	28.8	45.0	45.4	0.4
飲食関連	45.0	45.0	58.3	13.3
サービス関連	48.5	44.6	51.5	6.9
住宅関連	75.0	60.7	58.3	-2.4
企業関連	40.0	36.3	52.4	16.1
雇用関連	55.6	66.7	58.3	-8.4

図表3 回答構成比〔先行き見通し〕



図表4 景気先行き判断指数（DI）の内訳

分野	24年10月	25年1月	25年4月	増減
合計	44.3	56.1	56.2	0.1
家計関連	44.9	54.5	55.5	1.0
小売関連	45.5	53.3	50.9	-2.4
飲食関連	33.9	47.5	63.9	16.4
サービス関連	45.6	55.4	57.4	2.0
住宅関連	66.7	67.9	58.3	-9.6
企業関連	42.5	57.5	56.0	-1.5
雇用関連	44.4	63.9	61.1	-2.8

図表5 地域別の景気判断指数（DI）

地域	景気現状判断指数（DI）				景気先行き判断指数（DI）			
	24年10月	25年1月	25年4月	増減	24年10月	25年1月	25年4月	増減
合計	42.9	46.4	51.7	5.3	44.3	56.1	56.2	0.1
県央地域	43.3	46.9	49.1	2.2	41.7	54.7	56.9	2.2
県南地域	47.2	45.0	57.6	12.6	45.8	58.6	56.3	-2.3
沿岸地域	42.9	45.3	45.3	0.0	44.6	51.6	53.1	1.5
県北地域	21.9	53.6	46.9	-6.7	46.9	60.7	59.4	-1.3

【参考3】

< 調査要領 >

1. 調査内容

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由及び具体的状況の説明
- (3) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (4) (3)の理由

※(1)、(3)は5段階評価による回答とする。

2. 調査時期

調査は平成25年4月に実施した。

3. 調査対象者

県内の景気の動きを敏感に観察できる立場の方110名（図表6、7）。

図表6 調査対象者の分野・業種

分野 (調査対象者数)	調査対象者の代表的な業種
家計関連 (76名)	
小売関連 (30名)	百貨店、スーパー、コンビニ、 一般小売店、自動車販売など
飲食関連 (16名)	飲食店、割烹・料理店、スナック、 外食チェーンなど
サービス関連 (22名)	ホテル・旅館、クリーニング店、 ガソリンスタンド、タクシーなど
住宅関連 (8名)	建設設計事務所、不動産販売、 住宅販売など
企業関連 (24名)	製造業、広告代理店、運輸業、 農林水産業など
雇用関連 (10名)	人材派遣、学校就業関係者、 求人広告など

図表7 調査対象地域の区分

地域 (調査対象者数)	市町村
県央地域 (39名)	盛岡市、八幡平市、雫石町、 葛巻町、岩手町、滝沢村、 紫波町、矢巾町
県南地域 (42名)	花巻市、北上市、遠野市、 一関市、奥州市、西和賀町、 金ヶ崎町、平泉町
沿岸地域 (19名)	宮古市、大船渡市、陸前高田市、 釜石市、住田町、大槌町、 山田町、岩泉町、田野畑村
県北地域 (10名)	久慈市、二戸市、普代村、 軽米町、野田村、九戸村、 洋野町、一戸町

4. 回答状況

有効回答数 89件

回収率 80.9%

5. 指数（D I 値）の算出方法

5段階の判断に、それぞれ図表8のとおり点数を与え、これらに各判断の構成比（%）を乗じてD I 値（Diffusion Index）を算出する。D I 値は50を目安としており、50を上回っていれば景気の上昇局面、下回っていれば下降局面と判断する。

図表8 指数（D I 値）点数表

回答区分	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
点数	+1	+0.75	+0.5	+0.25	0